

# 雪椿（ゆきつばき）の知恵

〜 軟らかな心 〜

運動不足がたたって入院したこともあって、運動療法のため今春はとくに暇を見つけてよく野山を歩きました。

四月上旬、西穂高岳に通じる尾根や、白馬岳が目前に見える八方尾根は雪が多く、まだ冬そのものでした。また、蒜山の隣りにある三平山は脛のあたりまでの雪で、七合目あたりで雪崩が道を塞いでいたため、引き返す勇気を奮い立たせて登山を中止しました。四月中旬に訪ねた新見の奥の花見山、中和村にある津黒山でさえ頂上付近に雪が残っていました。今年は雪が多かったせいか、折れた木々や太い枝が登山道の障害物（ハードル）になっている場面は何度も出くわしました。あまりに多過ぎる積雪に耐えられず折れたのでしよう。直径三〇センチもあるような杉の木が、ポキリと折れているのを見て、私はテレビで紹介された「雪椿」の強さを何度も思い出しました。きつと病気で倒れた自分に欠けている「自由さ・柔らかさ・したたかさ」を雪椿の姿の中に認めたからでしょう。

豪雪地帯の山々に自生する雪椿は、細くてしなやかな枝や幹を斜め上に伸ばすことによつて、ときには一〇メートルを超すほどにも積もった雪の重圧にさからわず、まるで押さえられたスプリングのように身を任せるのです。そして春になり雪が溶け、自らを抑圧するものがなくなつた瞬間、それは、透明に輝く太陽の光の中にピンと立ち上がります。テレビでその瞬間を見た私は、自然が与えたその軟らかな知恵に、思わず舌を巻いたものです。

相談室でいろいろな悩みを聞いていて、いま、この人には雪椿の知恵が必要だなと思うことがよくあります。たとえば「私は父親を憎んでいます。でも、父親を憎むような自分自身も大嫌いなのです」と、揺れる心を素直に話してくれるような時があります。そういうとき「自分のお父さんを憎みたい人間はいないよね。それでもあなたが憎んでいるのはよほどの理由があるからだろうと思う。お父さんを許す前に、まずお父さんを憎んでいる自分を許すことから始めたらどうだろうか」などと言うことがあります。

父親が憎いという気持ちにさからわず、その気持ちを素直に認め許すことは、雪椿が降り積もる雪の重みにさからわないのと同じなのです。雪が溶けて太陽の光を浴びるときがくれば、自然に克服できるのです。憎い人を憎んではいけないと自分を責め続けることは、雪の重さに対して懸命に耐える杉と同じなのです。

芽吹きが遅い県北からの帰路、道路を南下することに緑が深くなります。その柔らかそうな山々を車窓から見ながら、山全体をテンブラにして食べたい衝動にかられたり、自然の営みの奥深さに感動したりする私です。



二〇〇〇年五月